

1 単元名 相手に分かりやすい形でスピーチしよう
(教材：東京書籍3年「場面に応じて話そう 条件スピーチ」)

2 単元の目標

- 場の状況や相手の様子に応じて、自分の経験や知識を再構成し、工夫して話そうとする。
(国語に対する関心・意欲・態度)
- 体験や知識を整理し、目的や相手、話す時間を意識して、話す内容や話し方を変えてスピーチすることができる。
(話すこと・聞くこと)
- 相手に応じて難解な語を言い換えたり、敬語を正しく使ったりして話すことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・場の状況や相手の様子に応じて、自分の経験や知識を再構成し、工夫して話そうとしている。	・目的や相手、話す時間を意識して、条件に合った内容や話し方を考え、変化させながらスピーチしている。	・相手が知らない言葉の言い換えや補足をし、敬語を正しく使って話している。

4 単元の指導について

(1) 生徒観

全国学力・学習状況調査の結果、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」問題の正答率が*%、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」問題の正答率が*%となっており、相手に分かりやすいよう形を変えて話す力に課題が見られることが分かる。これは今までの授業で、一つの場面のみを想定した練習や発表が多く、同じ内容について条件を変えて話す学習が十分でなかったためと考えられる。

(2) 教材観

本教材は、自分の体験について条件を変えながら、それぞれの条件に適した内容や話し方を考えてスピーチする学習である。同じ体験について語ることであっても、目的や相手、スピーチの時間が異なれば、話す内容の切り口や話し方の工夫を変える必要がある。複数の場面を想定することで、目的意識や相手意識をもって話す力を育むことができる教材であると言える。

(3) 指導観

本時は、「相手に分かりやすい形でスピーチしよう」という言語活動に向かって、複数の場面を想定したスピーチの構成を考える。まず、スピーチのバッドモデルを提示し、相手や目的が変わることでスピーチに必要な観点も変化することを確認し、学習の見通しをもてるようにする。次に、具体的な場面を複数提示し、それぞれの場面で適切な情報や話し方の注意点は何か話し合い、相手に分かりやすく伝えるための工夫について理解できるようにする。このことによって、相手意識や目的意識をもって話す大切さを理解するとともに、適切に話す力を身に付けることができると思う。

5 指導と評価の計画 (3時間扱い)

時	主な学習内容	主な評価規準 (評価方法)
1	○学習目標を確認し、学習計画を立てる。 ○中学生生活を振り返り、スピーチの材料を集める。	・目標をとらえ、自分の経験から材料を集めている。(ワークシート)
2 本時	○複数の場面に応じた内容や話し方を考え、相手に分かりやすく話す工夫をまとめる。	・場面に合う内容や話し方を考え、分かりやすく話す工夫をまとめている。(観察・ワークシート)
3	○グループでスピーチの練習と発表をし、話す内容や話し方について意見交換をする。	・まとめた工夫を生かしてスピーチすることができる。(観察・発表)

6 本時の目標

- ・場面に合った内容や話し方を考えることを通して、相手に分かりやすく話す工夫について理解することができる。
(話すこと・聞くこと)

7 展開

学習活動・内容	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 複数の場面に合った内容や話し方を考え、相手に分かりやすく話す工夫をまとめよう。 </div> <p>2 複数の場面を想定し、それぞれの場面に適したスピーチの内容や話し方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 〈スピーチのテーマ〉 中学校生活で最も打ち込んだこと 〈場面1〉中学校体験に来た小学生へのPR 〈場面2〉高校入試の面接での先生への応答 〈場面3〉お世話になった方への報告 </div> <p>3 相手に分かりやすく伝える工夫について分かったことをまとめる。</p> <p>(1) 場面が変わったことでスピーチでも変化した部分と、その理由をグループで話し合う。</p> <p>(2) 相手に分かりやすく伝える工夫を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの目的に合った内容を整理して話すと、相手に分かりやすい。 ・相手が知らない言葉や難しい言葉があるときは、違う言葉に言い換えたり、説明を入れると分かりやすい。 ・目的に合った声の調子や言葉遣いがある。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・相手に分かりやすい工夫は、目的や相手によって変えることが分かった。次のスピーチでは条件に合わせて話し方を変えるようにしたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で使用したバッドモデルを確認することで、本時のねらいの達成に必要なポイントを押さえ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・前時に考えた内容を確認し、足りないようであれば付け加えてよいことを助言する。 ・話し方について書き方に悩んでいる生徒には、「声の調子」や「速さ」、「言葉遣い」というキーワードを使うよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【関心・意欲・態度】 (A)相手に分かりやすいよう意識して、使う内容や話し方を整理したり付け加えたりして記入している。 (B)場面ごとに適した内容を選び、話し方の工夫や注意点を記入している。 (観察・ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・変化した理由を説明することが難しい生徒には、「相手」と「目的」というキーワードを使うよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【話す・聞く能力】 (A)場面ごとのスピーチの違いから見つけた分かりやすく話す工夫を、進んで発表し、自分の言葉でまとめている。 (B)スピーチの変化と理由について発表し、分かりやすく話す工夫をまとめている。 (観察・ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表をキーワードを中心に板書して共通理解を図り、全員が確認できるようにする。 ・本時の振り返りでは、できるようになったことを中心に、疑問や次の学習でやりたいことを記入するように助言する。 ・本時のねらいに沿った振り返りをしている生徒を意図的に指名し、成果を共有できるようにする。